

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 11 月 2 日 (2006.11.2)

【公表番号】特表 2002-529565 (P2002-529565A)

【公表日】平成 14 年 9 月 10 日 (2002.9.10)

【出願番号】特願 2000-581091 (P2000-581091)

【国際特許分類】

C 0 9 D 161/28 (2006.01)

C 0 9 D 5/00 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 161/28

C 0 9 D 5/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 9 月 13 日 (2006.9.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 水性分散体の形態の粉末組成物を基材に施すことによりコーティングを作製する方法であって、

A) 15 ~ 30 重量%の 1 つまたはそれ以上のメラミン樹脂、

B) 3 ~ 30 重量%の 1 つまたはそれ以上の多価アルコール、

C) 10 ~ 50 重量%の 1 つまたはそれ以上のホスフェートおよび / またはポリホスフェート、そして

D) 3 ~ 30 重量%の 1 つまたはそれ以上のクロロパラフィンおよび / またはメラミンおよび / またはメラミン誘導体および / またはジシアノジアミド

を含有する粉末組成物が使用され、プラスチック、コンクリート、鋼または木材をベースとする基材に分散体が施されることを特徴とする上記コーティングの作製方法。

【請求項 2】 メラミン / ホルムアルデヒド反応の生成物をベースとするメラミン樹脂が成分 A として使用されることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】 ペンタエリスリトールが成分 B として使用されることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】 ジペンタエリスリトールが成分 B として使用されることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 5】 メラミンおよび / またはメラミン誘導体が成分 D として使用されることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 6】 粉末組成物が成分 A から D に加えて、さらに添加される物質として水酸化アルミニウムおよび / または硼酸亜鉛を含有することを特徴とする請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 7】 粉末組成物が成分 A から D に加えて、0 ~ 5 重量%の量の膨張可能なグラファイトを含有することを特徴とする請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 8】 噴霧乾燥によって使用に先立って粉末形態に転換されている液体成分が、成分 A から D として使用されることを特徴とする請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 9】 40 ~ 80 重量%の粉末組成物を 20 ~ 60 重量%の水と攪拌下で混合することによりつくられる水性分散体を使用されることを特徴とする請求項 1 ~ 8 のい

ずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 10】 プラスチック、木材、鋼およびコンクリートをベースとする基材上にコーティングを作製するために、

A) 15 ~ 30 重量%の 1 つまたはそれ以上のメラミン樹脂、

B) 3 ~ 30 重量%の 1 つまたはそれ以上の多価アルコール、

C) 10 ~ 50 重量%の 1 つまたはそれ以上のホスフェートおよび / またはポリホスフェートそして

D) 3 ~ 30 重量%の 1 つまたはそれ以上のクロロパラフィンおよび / またはメラミンおよび / またはメラミン誘導体および / またはジシアノジアミド

を含有する粉末組成物の水性分散体としての使用。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明に従うとき、クロロパラフィン、メラミンおよび / またはメラミン誘導体、例えばメラミンホスフェート、メラミンシアニュレートおよびジシアノジアミドが成分 D として使用される。これらは熱の作用下で不燃性ガスを生成するために使用される。メラミンおよびメラミン誘導体の使用が特に好ましい。